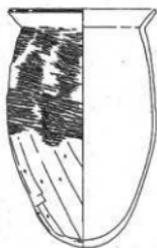


雲仙市文化財調査報告書 第8集

i ko
伊古遺跡 III

弥生時代～中世編

—古江地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告—



2010

長崎県雲仙市教育委員会



遺跡上空より有明海を望む (中央に流れる西郷川)

雲仙市文化財調査報告書 第8集

i ko
伊古遺跡 III

弥生時代～中世編

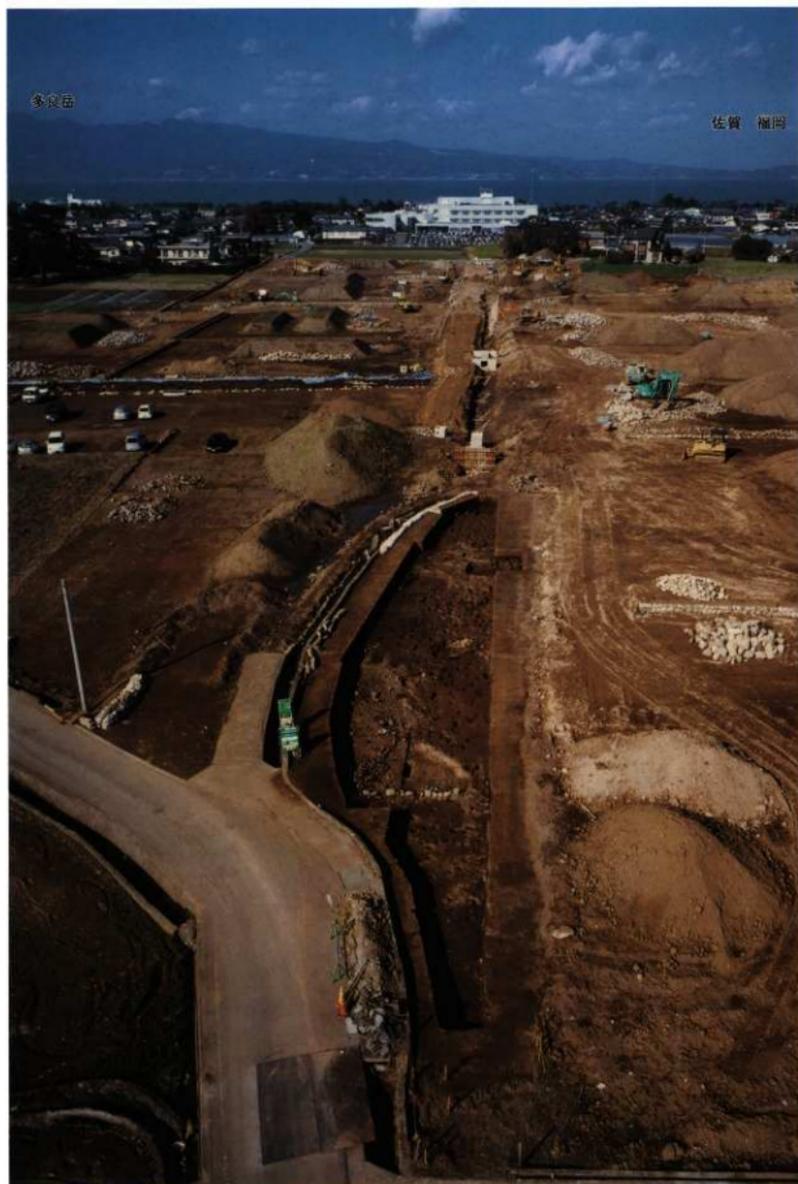
—古江地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告—

2010

長崎県雲仙市教育委員会



遺跡上空写真（園場整備事業の進む伊古遺跡・平成20年）



遺跡上空写真 (D6区)



遺跡上空写真 (E区・道路伏遺構) (上)

道路伏遺構 (北半分) (左下)

道路伏遺構 (南半分) (右下)



遺跡上空写真（J区・後ろは雲仙普賢岳）

発行にあたって

このたび平成17年度から平成20年度まで実施しました古江地区圏場整備事業に伴う伊古遺跡の発掘調査の報告書を発行することになりました。当市は平成17年10月11日（10月11日）に7ヶ町（国見町・瑞穂町・吾妻町・愛野町・千々石町・小浜町・南岸山町）が合併して誕生し、「豊かな大地・輝く海とふれあう人々で築くたくましい郷土」の実現を目指しています。

伊古遺跡は、高原半島の北側に位置し、標高約20mの扇状地台地上の水田地帯に広がります。西側には西郷川が流れ、遺跡東端は雲仙普賢岳の麓から舌状の丘陵が続きます。遺跡の南側には雲仙普賢岳がそびえ、頂上付近には平成新山と名付けられた溶岩ドームが噴火の生々しさを今に伝えています。北側に目を移せば、眼下に有明海が広がり、佐賀県・福岡県・熊本県までも一望することができます。

これまでにも調査内容を報告（2008・2009雲仙市教委）しておりますが、当遺跡からは、縄文時代から中世までの幅広い時代の遺物・遺構が発見されており、その埋蔵量は計り知れないほどです。昨年報告いたしました、1,500点を超える縄文時代草創期の土器や細石器の検出は、県内でも有数の資料であり、旧石器時代から縄文時代へと移り変わる人々の生活の様子を髣髴させます。

今報告では、遺跡より検出された弥生時代から中世における遺構・遺物を報告します。弥生時代の甕棺墓群や環濠と考えられる堀の跡、熊本地方からもたらされたと考えられる土器群、中世の輸入陶磁器類や瓦器・土師器類及び滑石製製品など、数多くの資料が発見されております。特に、古墳時代初頭と考えられる土器群は、熊本地方で作製されたものと考えられ、県内では初めての発見となりました。有明海を越えて人と文化の交流が存在していた証であり、当地に暮らした祖先たちの姿を垣間見ることができます。また、中世における大量の中国製輸入陶磁器類の発見は、これもまた、県内でも有数の規模で、当時の交易史を考えるうえでまたとない貴重なものとなりました。どの時代においても、当遺跡地が地域社会の中心として機能していたと考えられ、有明海沿岸の歴史・文化を考える上で「鍵」となる遺跡となるでしょう。

雲仙市の緑豊かな農業地帯も、近年の農業基盤整備に伴い大きく変貌しております。このような情勢の中で、祖先の貴重な文化遺産を保護し、これを後世に伝えることは、私たちに課せられた重要な責務であります。本市では、このような事態に対処するため、遺跡発掘調査を行い保存・保護に努めて参りました。そして調査の成果を公開する一つの手立てとして報告書を作成いたしました。遺跡の宝庫といわれる本市にとりましては、貴重な歴史と文化を理解するうえで大きな役割を果たすものと期待しております。

最後になりましたが、今回の調査に当たり、地元地権者の皆様、工事関係者の皆様、大学・博物館関係の諸先生方ならびに長崎県教育委員会学芸文化課の皆様のご指導に衷心から感謝申し上げます。発行のことばといたします。

平成22年3月25日

雲仙市教育委員会
教育長 塩田 貞祐

例

1. 本報告は平成17年度～平成20年度（2005年～2008年）に実施した古江地区県営園地整備事業に伴う長崎県雲仙市瑞穂町に所在する伊古遺跡の発掘調査の報告である。

2. 調査は旧瑞穂町教育委員会及び雲仙市教育委員会が担当した。現地調査は下記の期間実施した。
2005年8月17日～2008年10月10日

3. 調査体制は次のとおりである。

瑞穂町教育委員会 (2005/4/1～2005/10/10)

教育長 小峰 辰雄
教育次長 小田 雅夫
係長 内田 啓介
主査 宮崎 博久

調査担当

文化財調査員 安樂 哲史

雲仙市教育委員会 (2005/10/11～2007/3/31)

教育長 鈴木 勝利
教育次長 辻 政実
生涯学習課長 岩永 判二
文化財班班長 柴崎 孝光
主査 辻田 直人
主事 徳永 真幸

調査担当

主査 江崎 亮太
文化財調査員 安樂 哲史 (～2006/3/31)
文化財調査員 山下 美郷・益田 豊明
(2006/4/1～)

平成20年度調査体制

教育長 鈴木 勝利 (～12/1)
教育長 塩田 貞祐 (3/1～)
教育次長 塩田 貞祐 (～2/28)
教育次長 山野 義一 (3/1～)
生涯学習課長 川鍋 嘉則
課長補佐 金子 悦治
文化財班班長 田中 卓郎
文化財班係長 江崎 亮太
主事 徳永 真幸

調査担当

主査 辻田 直人
文化財調査員 山下 美郷・小野 綾夏・
大野 瑞恵
文化財整理員 早稲田一美・柳原亜矢子・
林田 崇

平成21年度調査体制

教育長 塩田 貞祐
教育次長 山野 義一
生涯学習課長 川鍋 嘉則
課長補佐 金子 悦治
文化財班班長 田中 卓郎
文化財班参事補 江崎 亮太

言

係長 辻田 直人
主査 徳永 真幸
文化財調査員 小野 綾夏・大野 瑞恵・
村子 晴奈
文化財整理員 早稲田一美・柳原亜矢子・
小笹 智枝

4. 現地での遺構・遺物の実測は進藤涼子・前田チイ・吉川 新・水谷安孝・東 文子・竹田将仁（別府大学）・江崎・安樂・山下・益田が行い、遺物の実測は辻田・小野・大野・村子・早稲田・柳原・小笹が、トレースは早稲田が行った。また、図版の編集・作成は辻田・小野・大野・村子・早稲田・柳原が行い、写真は現地調査を江崎・安樂・山下・益田・辻田・小野・大野が撮影した。掲載遺物写真は小野・早稲田・柳原が行い、写真編集は小野が行った。
5. 現地での遺構実測の一部は(株)蔵文化財サポートシステム長崎支店、及び、(株)扇精光に委託した。出土遺物実測の一部は(株)蔵文化財サポートシステム長崎支店に委託した。
6. 空中写真撮影業務は(株)九州文化財研究所及び(株)スカイサーベイ九州に委託した。
7. 本遺跡の遺物及び写真・図面等は雲仙市国見神代小路歴史文化公園 歴史民俗資料館で保管している。
8. 本書で用いた方位はすべて真北であり、国土座標は世界測地系による。
9. 現地調査および本書の刊行にあたり多くの方々からご助言いただいた、記して謝意を表します。長岡信治（長崎大学教育学部教授）、木本雅康（長崎外国語大学）、早田 勉（烽火山灰考古学研究所）、川道 寛（長崎県教育委員会）、渡邊康行、杉原敏之（福岡県教育委員会）、本田秀樹（長崎県立北高等学校）、山口勝也（(株)蔵文化財サポートシステム）、竹中哲朗（諫早市教育委員会）、平田賢明、長崎県学芸文化課、長崎県島原振興局農村整備課、西郷土地改良区、雲仙市農漁村整備課、長崎県考古学会、瑞穂史談会、(株)柴崎建設、(株)順宝建設、(株)富士建設（順不同）
10. 本書の執筆は辻田・小野・大野・村子が分担し、各章及び各節文末に執筆者名を記した。
11. 本書の編集は江崎の協力を得、辻田・小野・大野・村子による。

目 次

巻頭図版

発行にあたって

例言

本文目次

挿図目次

表目次

図版目次

第1章 調査の経緯	1 p
第1節 発掘調査にいたる経緯 (辻田)	
第2節 発掘調査の方法及び経過 (辻田)	
第3節 遺跡の地理的・地形的環境 (辻田)	
第2章 弥生時代～古墳時代	4 p
第1節 弥生時代 (小野)	
第2節 弥生時代終末～古墳時代初頭 (小野)	
第3章 中 世	26 p
第1節 検出遺構 (辻田)	
第2節 出土遺物 (大野・小野)	
第4章 ま と め	74 p
第1節 総括 (小野)	
第2節 ま と め (小野・村子)	

挿 図 目 次

第1図	道跡位置図 (1/20,000)	
第2図	調査区配置図 (1/1,775)	3
第3図	F区甕棺・ミニチュア土器出土状況 (甕棺1/12・土器1/6)	4
第4図	3号甕棺検出状況 (1/20)	5
第5図	1号甕棺検出状況 (1/20)	5
第6図	2号甕棺検出状況 (1/20)	5
第7図	F区出土甕棺 (1/6)	7
第8図	F区・F'区出土土器 (1/3)	8
第9図	市道試掘調査甕棺出土状況 (1/20)	8
第10図	市道出土甕棺 (1/6)	9
第11図	ウッドサークル検出地点 (H・Q4・R区) (1/400)	10
第12図	H・Q4区ウッドサークル検出状況 (1/200)	11
第13図	H区ウッドサークル出土遺物 (1/3)	13
第14図	H区出土土器 (長頸壺) (1/3)	14
第15図	H区出土土器 (器台) (1/3)	14
第16図	伊古遺跡 I・J区 (1/400)	16
第17図	J区SX-01甕棺出土状況 (1/20)	17
第18図	J区SX-02甕出土状況 (1/20)	17
第19図	J区SX-01・SX-02出土土器 (甕棺・甕) (1/6)	17
第20図	Q区SD-1・Q・R区SD-3検出状況 (1/400) Q区SD-1土器検出状況 (1/100)	19
第21図	Q区出土土器 (甕) (1/3)	21
第22図	Q区SD-1出土土器 (甕・壺) (1/3)	22
第23図	Q区SD-1出土土器 (鉢・高坏) (1/3)	23
第24図	Q区SD-1出土土器 (高坏) (1/3)	23
第25図	Q区SD-3出土土器 (甕) (1/3)	24
第26図	Q区土坑出土土器 (鉢) (1/3)	24
第27図	D3区出土土器 (1/3)	25
第28図	J T-1出土土器 (甕) (1/3)	25
第29図	S区掘立柱建物検出状況 (1/100)	27
第30図	S区1号掘立柱建物 (1/50)	28
第31図	S区2号掘立柱建物 (1/50)	29
第32図	S区3号掘立柱建物 (1/50)	30
第33図	C区土坑墓検出状況 (1/50・拡大図1/25・遺物1/6)	31

第34圖	H區土坑群檢出狀況 (1/100·土坑断面1/50·出土遺物1/6)	33
第35圖	H區土坑群出土遺物 (1/3)	33
第36圖	龍泉窯系青磁① (1/3)	35
第37圖	龍泉窯系青磁② (1/3)	37
第38圖	龍泉窯系青磁③ (1/3)	39
第39圖	龍泉窯系青磁④ (1/3)	41
第40圖	龍泉窯系青磁⑤ (1/3)	42
第41圖	同安窯系青磁① (1/3)	44
第42圖	同安窯系青磁② (1/3)	46
第43圖	同安窯系青磁③ (1/3)	48
第44圖	同安窯系青磁④ (1/3)	50
第45圖	同安窯系青磁⑤ (1/3)	51
第46圖	高麗青磁 (1/3)	51
第47圖	白磁① (1/3)	53
第48圖	白磁② (1/3)	55
第49圖	白磁③ (1/3)	57
第50圖	白磁④ (1/3)	59
第51圖	白磁⑤ (1/3)	61
第52圖	白磁⑥ (1/3)	63
第53圖	青白磁 (1/3)	64
第54圖	土師質土器 (1/3)	65
第55圖	瓦器① (1/3)	67
第56圖	瓦器② (1/3)	69
第57圖	瓦器③ (1/3)	71
第58圖	瓦器④ (1/3)	73

表 目 次

第1表	S區檢出掘立柱建物群構成表	30
第2表	出土土器觀察表	77
第3表	出土土器觀察表	78
第4表	出土土器觀察表	79
第5表	出土土器觀察表	80
第6表	中世土坑墓遺物一覽表	80
第7表	中世遺物一覽表 (貿易陶磁器·青磁①)	81

第8表	中世遺物一覧表 (貿易陶磁器・青磁②)	82
第9表	中世遺物一覧表 (貿易陶磁器・白磁①)	83
第10表	中世遺物一覧表 (貿易陶磁器・白磁②)	84
第11表	中世遺物一覧表 (貿易陶磁器・白磁③)	85
第12表	中世遺物一覧表 (貿易陶磁器・青白磁)	85
第13表	中世遺物一覧表 (土師質土器)	85
第14表	中世遺物一覧表 (瓦器①)	86
第15表	中世遺物一覧表 (瓦器②)	87

図 版 目 次

中表紙図版	遺跡上空より有明海を望む (中央に流れる西郷川)
巻頭図版①	遺跡上空写真 (圃場整備事業の進む伊古遺跡・平成20年)
巻頭図版②	遺跡上空写真 (D6区)
巻頭図版③	遺跡上空写真 (E区・道路状遺構) (上) 道路状遺構 (北半分) (左下) 道路状遺構 (南半分) (右下)
巻頭図版④	遺跡上空写真 (H区・ウッドサークル・中世土坑群・後ろは雲仙普賢岳) (上) H区ウッドサークル (左下) H区土坑群 (右下)
巻頭図版⑤	遺跡上空写真 (J区・後ろは雲仙普賢岳)

図版 1

遺跡上空写真 (昭和38年国土地理院)

図版 2

F区3号甕棺検出状況 (北側より)
F区1号甕棺検出状況 (北側より)
F区2号甕棺検出状況 (東側より)
市道・SK-7甕棺検出状況 (北側より)
H区ウッドサークル検出状況 (北側より)
ウッドサークル内小ピット検出状況
H区全景 (北側より)
ウッドサークル検出作業風景

図版 3

Q4区ウッドサークル検出状況 (北側より)
R区ウッドサークル検出状況 (北側より)
I区SD-1 検出状況 (北側より)
SD-1土層 (南側より)
J区SX-01甕棺検出状況 (北側より)
J区SX-02甕棺検出状況 (東側より)
Q区全景 (西側より)
Q区SD-1 検出状況 (東側より)

図版 4

- Q区SD-1 検出状況近景 (東側より)
Q区SD-1 遺物出土状況 (北側より)
Q区SD-1 遺物出土状況近景 (西側より)
Q区SD-1 土層 (北側より)
Q区R区SD-3 検出状況 (南東側より)
Q区R区SD-3 土層 (北側より)
JT-1 全景 (南側より)
JT-1 甕出土状況 (東側より)

図版 5

- S区掘立柱建物1号2号検出状況 (北側より)
S区掘立柱建物3号検出状況 (北側より)
S区掘立柱建物群全景 (南東側より)
S区掘立柱建物群SP-93検出状況 (西側より)
H区中世土坑墓群 (北側より)
H区SK-5 検出状況
H区SK-36検出状況
H区中世土坑墓群検出風景 (南側より)

図版 6

- F区・市道出土甕棺(7頁第7図、9頁第10図)

図版 7

- F区・F'区・H区出土土器 (8頁第8図、13頁第13図、14頁第14・15図)

図版 8

- J区・Q区出土土器 (17頁第19図、21頁第21図、22頁第22図、23頁第23図)

図版 9

- Q区・D3区・JT-1・H区出土土器 (23頁第23・24図、24頁第25・26図、25頁第27・28図、33頁第35図)

図版10

- 龍泉窯系青磁 (35頁第36図~42頁第40図)

図版11

- 同安窯系青磁 (44頁第41図~51頁第45図)

図版12

- 高麗青磁・白磁① (51頁第46図~59頁第50図)

図版13

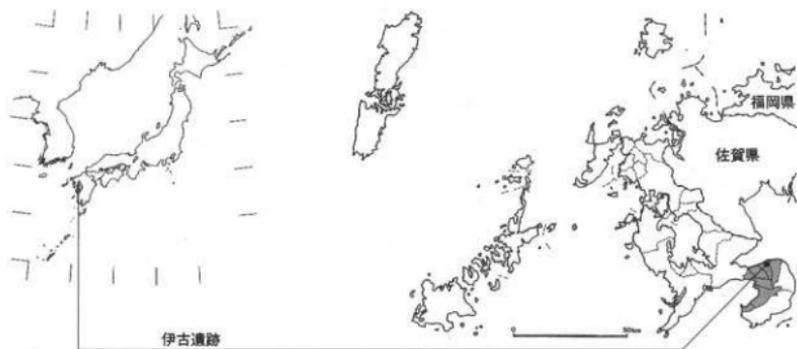
- 白磁②・青白磁 (59頁第50図~64頁第53図)

図版14

- 土師質土器 (小皿) (65頁第54図)
瓦器① (67頁第55図~69頁第56図)

図版15

- 瓦器② (69頁第56図~73頁第58図)



第1図 遺跡位置図 (1/20,000)